

論文：

ある大学図書館の企画展示を学生はどう受け止めたか —テキストマイニングの手法を用いた学生のコメントの分析—

安光裕子

How did the students respond to the planned exhibitions in a university library?: A text-mining analysis of student comments

YASUMITSU Hiroko

1. はじめに

山口県立大学新図書館は、2021年4月1日にグランドオープンした。新図書館の特徴は、狭いながらも随所に工夫を凝らし、開放的なスペースにゆったりとした閲覧席の配置、学生一人ひとりの主体的な学びを支援する場であるラーニングコモンズ、グループで発表資料の作成をするためのグループ学習室を設けていることなどである。また、学生や教職員は、来館することもなく自宅でも電子ジャーナルやデータベースなどを検索することができるなど、新図書館は、これまで以上に学習や教育研究に必要な資料・情報を容易に入手することができる場として整備されている。

グランドオープンした初年度は、これまで温めてきた様々な企画を実行に移している。なかでも、かつてスペースの関係で十分に展開することのできなかった「展示」に力を入れている。図書館の「展示」には、「特定主題への関心の喚起」、「資料への関心と理解の促進」、「図書館のPR」の3つの機能があるといわれている¹⁾が、新図書館での展示にはこれら3つの意味が込められている。

今年度は、いわゆる「おすすめ本」の展示を数回企画して、実行している。そのうちの1回は、新年度が始まって少し落ち着いた時期に実施したものであって、学生の誰もが知っている人、すなわち、入学式や新学期のオリエンテーションの挨拶で必ず出会う教員（学長、副学長、学部長など）による「おすすめ本」の展示であった。この展示の趣旨・目的は、図書館の利用者である学生に知的好奇心を喚起するとともに、多種多様な「知」（学問的な知や人生・生活の知など）の入口に学生をいざなうことにある。

本稿は、この展示が図書館の利用者である学生にどのように受け止められ、展示の趣旨・目的がどの程度、どのように実現したかについて、展示に対する学生の感想文から、テキストマイニングの手法を用いて、分析・検討することを目的とする。

2. 2021年度展示の概要

本学図書館の展示スペースは、次頁の【図1】に示されているように、主に「Center」「North」「South」「Mini」の4箇所に分かれている。「Center」は、主として大学所蔵の貴重な資料（桜圃寺内文庫関係資料、郷土文学資料センター関係資料）を展示するスペースであり、「North」「South」は、「Center」よりも規模の小さい展示スペース、「Mini」は、学生協働「YPU LEC」²⁾（例えば、「おすすめ本コンテスト」）などによる展示小スペースである。

2021年度の展示計画は、次項の【表1】に示すとおりである。

3. 展示に対する学生のコメントとテキストマイニング

3-1 展示の概要

本稿が対象とする展示は、「1. はじめに」で述べている、「North」で実施した6月企画展示「先生におすすめ本を聞いてみました（以下「本展示」とする。）」である。この展示では、学長1名、副学長2名、学部長3名、学科長5名、大学院の研究科長および専攻長各2名、図書館長1名の計16名が、(a)「学生に読んでほしい本」、(b)「先生の学生時代

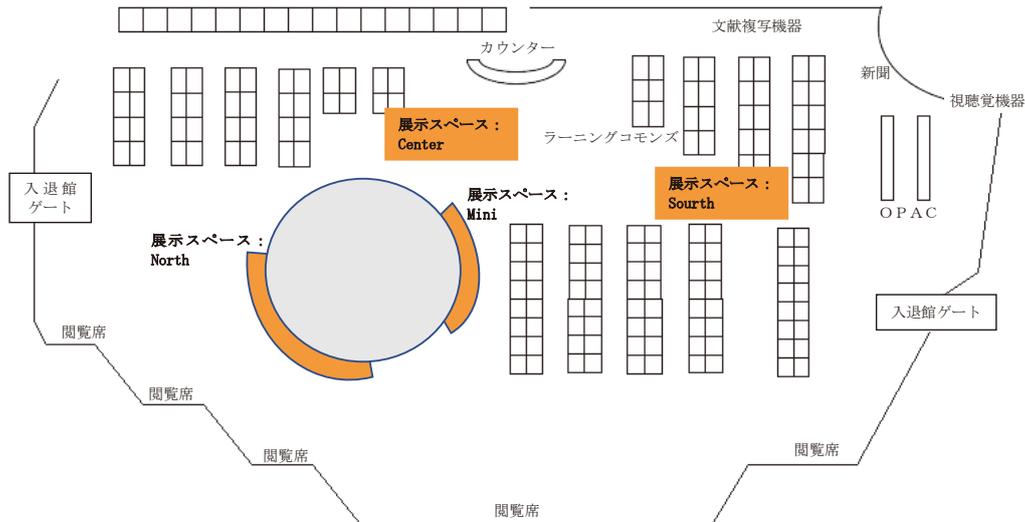


図1 図書館1階開架スペース

表1 2021年度 図書館展示計画

に読まれた本」, (c)「リラックスしている時に読む本」の3つのテーマから2冊の図書を推薦するもので、計32冊を展示した。32冊の内訳は、(a)が19冊、(b)が6冊、(c)が7冊である。また、これらの展示図書は、図書館所蔵図書26冊（うち14冊は本展示のために購入）、他の図書館からの借用図書4冊、推薦者の私物2冊である。展示と同時に貸出が行われたが、他館からの借用図書については、館内閲覧のみとした。

図書の展示は、次の4点に留意して行われた。

- ①展示図書の後背部に推薦者の顔写真入のコメントボード（推薦ポイントなどの140字程度の紹介文）を置いたこと。
- ②上記のコメントボードの色を淡いパステルカラー（ピンク、イエロー、ブルー、グリーン）にしたこと。
- ③「学生に読んで欲しい本」だけにテーマを絞るのではなく、「先生の学生時代に読まれた本」や「リラックスしている時に読む本」というようにテーマを広げたこと。
- ④展示図書が借り出された後に、その展示場所に当該図書の書影を置いたこと（その際、著作権

	展示 (Center)	展示 (North)	展示 (South)	展示 (Mini)
4月	新図書館グランドオープン記念特別展示 桜園寺内文庫精髄 (秘宝) (4月1日～7月16日)	パネル展示 (図書館情報学研究室) (4月1日～5月31日)	山口県立大学へようこそ 知ってほしい 山口を！県大を！ (4月1日～5月31日)	タイトル隠しました (YPU LEC) (4月8日～5月31日)
5月				
6月		教員のおすすめ本 (学長はじめ16名) (6月1日～7月16日)		
7月	宇野千代展示 (郷土文学資料センター) (7月20日～9月28日)	栄養学科展示 (7月21日～8月21日)	学生 (YPU LEC) に聞きました！ おすすめ本 (7月1日～7月30日)	レポート・論文の書き方 (7月1日～7月30日)
8月				
9月			おヒマな時は図書館に来て！ (8月10日～9月30日)	
10月	山口鷗流狂言 (郷土文学資料センター) (10月1日～10月28日)	社会福祉学科展示 (10月1日～10月28日)	笑わせませう！ (10月1日～10月28日)	
11月	山口県内大学ML連携【特別展】 「寺内正毅と桜園寺内文庫—設立100周年を迎えて—」 (11月1日～12月23日)	看護学科・別科展示 (11月1日～11月29日)		国試対策 (11月1日～11月29日)
12月		国際文化学科展示 (12月1日～12月27日)	心のお掃除も図書館におまかせください。 (12月1日～12月27日)	おすすめ本コンテスト (投票) (YPU LEC) (12月6日～12月23日)
1月	文字を書くモノ (1月6日～1月29日)	大学院展示 (1月5日～1月28日)	図書館職員からのおすすめ本 (1月5日～1月28日)	おすすめ本コンテスト (投票) (YPU LEC) (1月6日～1月22日)
2月	記録するモノ (2月1日～2月26日)	文化創造学科展示 (2月1日～2月22日)	貸出回数ゼロの図書に光を！ (2月1日～2月25日)	
3月	山口県立大学図書館この1年の活動 (3月1日～3月31日)	山口県立大学図書館この1年の活動 (3月1日～3月31日)	2021年度貸出ベスト3 (3月1日～3月31日)	山口県立大学図書館この1年の活動 (3月1日～3月31日)



写真1 6月企画展示「先生におすすめ本を聞きました」

法の観点から、出版社の許諾を得た)。展示の様子は、【写真1】のとおりである。

3-2 調査方法と研究倫理

(1) 司書科目「図書館概論」「図書館サービス概論」「図書館情報資源特論」および司書教諭科目「学校経営と学校図書館」「読書と豊かな人間性」の受講生65名(延べ人数)に、授業の課題として、本展示に対する150字程度のコメントをYPU Portal (UNIVERSAL PASSPORT)の「課題管理」に入力するように指示した³⁾。科目により7日または14日の入力期間を設けた。受講者のすべてが入力しており、その大半が平均すると要求字数の3割を超える200字程度のコメントを寄せている。こうしたことは、授業課題とはいえ、これらのコメントは、当該展示に対する学生の関心の強さの現れを示しているともみることができる。

(2) 当初は学生のコメントを研究に使うつもりはなかったが、本展示が学生にどう受け止められているかに興味をもったので、コメントを寄せた学生に対して、各授業の14回目⁴⁾において、寄せられたコメントについて分析・検討を行い、個人が特定できない形で論文にまとめ、発表したい旨の説明をした。その上で、コメントを研究のために用いることについて許諾を求めた。同時に、「説明後1週間以内にコメントの使用を許諾しないと申し出がないときは、許諾したものとみなす」との説明もした。その申し出はなかったため、すべてのコメントはその使用について許諾が得られているとみなされる。こうした経緯を山口県立大学研究倫理担当部署に問い合わせたところ、すべてのコメントを研究のために用いることに問題はないとの回答があった。

(3) 学生のコメントの分析には、テキストマイニングの手法を用いた。なお、テキストマイニングは、SPSS Text Analytics for Survey 4を用いた。

3-3 コメントの分析

テキストマイニングの手法を用いて、どのような形態素が頻出したかを表示したのが、次頁の【表2】である。しきい値は5人以上である。なお、この数値は、使用回数ではなく、使用した人数である。度数分布表の上位を占めている形態素の「本」、「先生方」、「先生」、「展示」、「おすすめ本」、「おすすめ」は、本展示のタイトルに含まれるものであるため、分析対象から除外する。

以下に、上記以外の特徴的な形態素「手」、「顔写真」、「写真」などを取り上げ、考察する。

(1) 「手」

まず、度数分布表の比較的上位にある形態素「手」を取り上げる。

コメントを見てみると、「手を伸ばす」が1例、それ以外はすべて「手に取る(取らない)」(12例)という表現を使っている。「手を伸ばす」と「手に取る」の用例には、「手を伸ばしやすくする良いきっかけ」、「手に取るいい機会」とあることから、ほぼ同義語として使われている。

コメントの詳細には、「普段自分が読まない本を手に入るきっかけになるのでこういった企画はぜひ続けて欲しい」や「手に取らない本ばかりだった。先生方のおすすめ本を知ることによって自分の将来に関するきっかけにもなるだろうし、自分の知らない本について知ることで新たな世界への入り口を教えられる」、「たくさんの蔵書の中からどういふもの

を選ぶといいのかわからず、悩むことが多い。(中略)私のような『何かを読みたいけど選べない』という人にとって本に手を伸ばしやすくする良いきっかけになると思う」という記述がある。

これらの記述から、本展示は、学生によっては、これまで「手に取らなかった」「手を伸ばさなかった」本、つまり興味関心の対象ではなかった本に興味関心を持ち、積極的に読んでみようという意欲が芽生える機会を提供したといえようか。本展示には、知的好奇心を喚起する作用があることが確認された。

(2) 「顔写真」および「写真」

コメントを見てみると、形態素「顔写真」を使用しているのは6例であり、「写真」を使用しているのは5例である。「写真」5例の内訳は、3例は「顔写真」の意味で使い、1例は「書影」、1例は本の中に出てくる写真を指していた。このことから、9例が「顔写真」「写真」ということばを、「顔写真」という意味で使っていることがわかる。

コメントの詳細には、推薦者の「顔写真」を使うことによって、「写真付きで説明されていたため、直接おすすめされているような温かさがあった」、 「普段、自分が読まないようなジャンルの本に出会うことができるよい機会だ」、「どんな人がおすすめしているのかが分かるし、より興味を持つ人が多い」などのコメントがある。

「顔写真」をコメントボードに載せることは、推薦者である先生の名前は聞いたことがあっても、顔がよくわからない学生にとっては、さも先生が自分に語りかけてくれているような親しみを感じるものである。推薦者の顔写真を推薦本とともに示すことは、展示方法としては訴求力をもたせるものであるといえよう。

(3) 「よい・よい」のパターンの抽出

テキストマイニングにより「よい」という意味をもつ形態素が連続しているとして抽出された文章は31例あった。これらのコメントの詳細を見てみると、①「顔写真」、②「書影」、③「紹介文」、④「コメントボードの工夫」、⑤「展示」のそれぞれについては、「よい」という意味で語られている。

①「顔写真」の場合

「誰のおすすめ本かがより分かりやすくなっていった」、「直接おすすめされているような温かさ」というコメントにあるように、推薦者の顔写真があることで、本に親しみがもてて「よい」というパターンである。

表2

度数分布表

整理番号	形態素	度数
1	本	53
2	先生(先生方)	40
3	展示	26
4	おすすめ本	21
5	おすすめ	18
6	興味	16
7	自分	15
8	手	13
9	紹介	11
10	中	9
11	学生	8
12	分野	8
13	図書館	8
14	機会	8
15	絵本	8
16	紹介文	8
17	ジャンル	7
18	今回	7
19	知ること	6
20	内容	6
21	印象	6
22	学科	6
23	顔写真	6
24	人	6
25	考え方	6
26	言葉	5
27	写真	5
28	一つ	5
29	学生時代	5
30	企画	5
31	他	5
32	話	5
33	表紙	5
34	後	5
35	企画展示	5

②「書影」の場合

「借りた後もどんな本かわかるように本の写真をおいているのはいいアイデア」、「本の後ろにも、紹介している本の写真が添えてあって、どんな本が置かれていたのかわかりやすいので良い」、「表紙が印刷された紙を用いることで本の散らばりを防ぎかつ、たとえ本がかりられていても本の表紙が分かるのは画期的」というコメントにあるように、書影があることで、展示図書が借り出されていてもどんな本が推薦されているのかが分かって「よい」というパターンである。

③「紹介文」の場合

「紹介の文からもその本に対する熱意が伝わってきたので、ぜひ読もうと思った」、「本人（推薦者の意：筆者注）のメッセージが見れるのはとても良い」、「推薦文がそれほど長くなく、すっきりとまとめられているので気軽に読むことが出来て良い」というコメントにあるように、紹介文があることで、推薦者の思いや推薦のポイントがよく分かり「よい」というパターンである。

④「コメントボードの工夫」の場合

「展示に色画用紙を使ってカラフルにすることで、見た目がよく興味を引くと感じ、展示の雰囲気的重要性を再確認した」、「淡い色で統一感もあって良かった」、「本の説明の紙が淡い色で可愛いなと思った」、「いろいろな吹き出しがあり、単に勧めるだけでないえ堅苦しくなくてとても良い」、「雰囲気を壊さない程度の飾りもあって目を引く」というコメントにあるように、コメントボードが工夫されていることで、展示に親しみや惹きつけるものを感じさせ、「よい」というパターンである。

⑤「展示」の場合

「普段、自分が読まないようなジャンルの本に出合うことができる良い機会」、「自分の興味に合うような小説があったり、課題に役立つような本があったりと幅広いジャンルで視野が広がる」、「普段自分が読まない本を手取るきっかけになる」、「何かを読みたいけど選べない人にとって本に手を伸ばしやすくするきっかけになる」というコメントにあるように、展示それ自体があることで、本との出会いの機会を提供してくれて「よい」というパターンである。

以上の①から⑤までの5パターンの検討から、「顔写真」、「書影」、「紹介文」、「コメントボードの工夫」、「展示」が学生に「よい」という意味をもつものとして受け止められているといえよう。

(4)「悪い・悪い」のパターンの抽出

テキストマイニングにより「悪い」という意味をもつ形態素が連続しているとして抽出された文章は14例あった。これらのコメントの詳細を見てみると、本展示に対する否定的なコメントは見当たらず、「おすすめ本の企画をもっと宣伝をした方がいい」、「本の中に出てくるキャラクターのポップを作ったり、もっと飾り付けをしたりしたらより目を引く展示になる」というように、展示に対する提案を意味するコメントである。また、「おすすめ本がきれいに並んでいなかった」やおすすめ本のリストが「おすすめ本よりも下においてあり、気づきにくかった」というような改善点を指摘するコメントである。

以上の「悪い」という意味で使われているコメントは、本展示に対する提案や改善点を意味するもので、こうしたコメントは、次回以降の展示に活かせるものである。

4. おわりに

以上のように、本展示が図書館の利用者である学生にどのように受け止められ、展示の趣旨・目的がどの程度、どのように実現したかについて、展示に対する学生の感想文から、テキストマイニングの手法を用いて、分析・検討した。その結果、次のことが示唆された。

(1) 学生のコメントをテキストマイニングの手法を用いて、度数分布表の比較的上位にある形態素「手」を導き出した。「手」という語があるコメントの詳細を見てみると、これまで興味関心の対象ではなかった本に興味をもつ学生、積極的に読んでみようと思欲が出た学生がいることが明らかとなった。また、その逆のコメントはなかった。これらのことから、本展示は、図書館利用者である学生に知的好奇心を喚起させる一定の作用があったといえよう。

(2) 学生のコメントをテキストマイニングの手法を用いて、度数分布表の比較的上位にある形態素「顔写真、写真」を導き出した。「顔写真、写真」という語があるコメントの詳細を見てみると、コメントボードに推薦者の顔写真を載せたことで、推薦者である先生が自分に語りかけてくれているような親しみを感じる学生がいることが明らかとなった。推薦者の「顔写真」に関して否定的なコメントはなかった。これらのことから、コメントボードに推薦者である先生の顔写真を載せる展示方法は、大学における学生と先生との関係性も相俟って、推薦図書の学生への訴求力をもたせる効果があったといえよう。

推薦図書を展示するにあたって、「顔写真入りのコメントボード」の提示、「コメントボードの工夫」、「推薦図書の範囲を広げたこと」、「書影」の提示の4点に留意した。学生のコメントを見てみると、これらの4点の留意事項は、いずれもある程度学生を本展示図書に惹きつける効果があったことがわかった。

テキストマイニングにより、「よい」という意味と「悪い」という意味をもつ形態素が連続しているとして抽出された文章にはパターンがあることが分かった。しかし、「悪い」という意味を含むコメントの詳細を見てみると、否定的な意味ではなく、本展示に対する提案や改善点を示すものであった。

(3) 以上から、本展示は、知的好奇心を喚起するものであるとともに、多種多様な「知」の入口にいざなうものであると、図書館の利用者である学生にはある程度受けとめられているといえるのではなかろうか。

こうした展示の振り返りを通じて、今後実施する展示の趣旨・目的に適合的な展示方法の開発が課題といえよう。

この研究で用いたテキストマイニングについては、山口県立大学看護栄養学部教授 甲原定房氏の助力を得た。ここに感謝の意を表す。

【注】

- 1) 田中麻巳「大学図書館における展示の実態と図書館員の認識」『大学図書館研究』101号, 2014, 83頁。
- 2) Yamaguchi Prefectural University Library Excitement Corps.の略（「山口県立大学図書館盛り上げ隊」）。
- 3) 学生への指示をしたのは、以下のとおりである。
「図書館概論」：7回目（6月2日）
「図書館サービス概論」：7回目（5月31日）
「学校経営と学校図書館」：8回目（6月7日）
「読書と豊かな人間性」：7回目（6月1日）
ただし、「図書館情報資源特論」（1単位科目, 8回）は、5回目（6月1日）に指示した。
- 4) 各科目の14回目の授業日は、以下のとおりである。
「図書館概論」：7月21日
「図書館サービス概論」：7月19日
「学校経営と学校図書館」：7月19日
「読書と豊かな人間性」：7月20日
ただし、「図書館情報資源特論」（1単位科目, 8回）は、6月22日（7回目）に説明した。